

網走ほんりゅう組

第418号
網走教職員組合
〒090-0836
北海道北見市東三輪1丁目83-35
TEL0157(31)7551
FAX 0157(31)7559
2月24日

道徳教育フォーラムから学ぶ

二月十四日(土)、札幌で行われた「第一回北海道道徳教育フォーラム」に参加してきました。道徳の教科化が検討されているこの時期の開催ということもあり、天候の悪い中でしたが、全道各地からたくさんの方々が参加していただきました。(会場が狭かったので、部屋に入りきれないほどの人数でした。)

前半は、各地でどのように道徳教育が行われているか、学校の様子を交流しました。「道徳推進教師」を中心に年間指導計画を作成している途中であるという学校や、参観日に年一回は道徳の授業をするように、全校で統一しているという学校もありました。週一時間設定されている道徳の時間を、特別活動や総合の時間の一部として活用したり、テレビを見る時間として活用している学校が多いという印象を受けました。

後半は、六本のレポート交流し、実践交流を行いました。「人権」や「命・生きる」というテーマを設定

た。やはり、道徳組に結集する組合員がいる学校では、「どうせやらなければならぬ」ならば、子どもたちのためになる取り組みにしよう」という、強さを持って実践していることがわかりました。そして、自分もしっかりとした実践を積み上げていかなければならないという思いを新たにしました。そのためにも、「道徳教育」についてしっかりと学習し、どんな実践が、子どもたちのためになるのかを、網走教組としても考えて行かなくてはならないと思いました。

(文責 若狭 美喜子)

全国青年教職員学習交流会に参加して

1月31日～2月1日に静岡県伊東温泉聚楽で全国青年教職員学習交流会「TANE!」が行われました。網走教組からは山本が、道教組・高教組合わせて北海道からは全7名が参加しました。全国から200名近くが集い、2日間親交を深めながら組合活動や時勢、教室での実践について学び、語り合いました。

1日目の講演は「教室と社会に架け橋を～希望の教育を日本中に!」と題して、立教大学の講師で全生研の渡辺雅之さんが行いました。今、学校はいじめ、校内暴力、不登校の問題が増加傾向にあること、生徒指導という名で進行するゼロトレランスで児童・生徒が管理、統制されていること、教師の過重労働で余裕がなくなっていることが最初に話されました。次に今、社会はヘイトスピーチに代表されるレイシズムの蔓延の問題、派遣会社やブラック企業などの働く人々の苦悩、過去最高(16.3%)の子どもの貧困とその連鎖・・・その背景には「新自由主義政策によって、規制緩和が進み、経済活動の自由が保証され、競争によって経済活動が活発になる側面もあるが、市場は弱肉強食の世界なので、現実的には強者と弱者の二極分解が進むことも否定できない。企業の淘汰やリストラなど格差社会が生み出され、公共や共同が破壊されるケースが続発する。また、物事の失敗やトラブルは自分の責任であるという自己責任論とセットになっている。そしてそれは子どもたちの貧困の連鎖を生む要因となっている。」とまとめていました。

そんな中で学校に求められることは、教室と社会をつなぐこと、「社会～世界」は変えられるという実感を持たせることであると話されました。「教室の問題に取り組むことは社会の問題に取り組むこととイコールである。そして、社会の問題に目を向けなければ、教室の問題に取り組むことはできない。」という言葉に深い共感を覚えました。

その後のテーマ別分科会と2日目の講座では、「通常学級にいる支援の要する子」がテーマの会場に参加しました。ここで話されていた内容は網走教組ではいち早く着目し学んできたことでした。私たちは今後さらに内容を発展させ、実践的に学習を進めていくべきだと感じました。(文責 山本 仁史)

網走教組をこんな組合に

他人からどうして組合があるの? どうして組合が必要なの? と聞かれると、はつきり言えないのが正直なところですが、ただ、他人に支部会議や支部代、障教部総会にどうして行くの? と聞かれれば、言えることがあります。そこへ行くと「学習することが出来る」「自分のとりとめのない思いを言える」「他人の考えをきける」「思いを共有できる」とは、言えます。その部分を基礎にして、自分にとって組合って何だろう? そう考えると「人と人が集まって、それぞれが自分の頭でじっくりと色々なことを思えたり、考えたりすることが出来る場所」なのかなと思えます。そういった意味で、網走支部の斎藤正倫先生が言う『ベースキャンプ』という言葉はしっくりくるのではないのでしょうか。自分はこの場が、組合員にとって学習できる場であると同時に一度立ち止まって考えたり、自分の実践を振り返る場であったりすることを願います。

(文責 能代 岳)

お知ろせ
第24回網走教組定期大会
3月7日 10時～
北見市民会館 7号室
都合をつけて全員参加をめざしましょう!!

現場から教育を問う
クレスコ
定期購読受付中
2015年3月号 [No.168] ◆毎月25日発売・85冊・476円税別
【発行】大月書店
〒010-0832 北見市東三輪1丁目83-35 電話0157(31)7551(代) 0157(31)7559
http://www.kresco.co.jp/

特集 <3・11>から4年
学び、発信し、行動する

東日本大震災後の教育復興と復興教育 岩手県 佐藤修司
福島県大熊町学校再生への挑戦 大熊町教育委員 武内敏英
被災地に芽吹く若木を育てる 聖心大学 梅原利夫
宮城/若手/福島/兵庫ほか

私の出会った先生達から学んだ「3・11」から4年
岩手県 佐藤修司
福島県 武内敏英
宮城県 梅原利夫
兵庫県 若狭美喜子
西谷文和
金平茂紀
岩重佳治
石山久男

【編集】クレスコ編集委員会・全日本教職員組合
お問い合わせは、所属組織または全教へ